

# 門 信 徒 だ よ り

令和2年4月 和 上 発

花も咲き鳥も歌う新生の喜びが一瞬の新型コロナ拡大によって吹き飛ばされ、日夜朝暮が不安と焦燥の中で居住されて居られる皆様の顔を思い出し、どうぞこの未曾有の大災難が治まり再び笑顔で再会できる日の近からんことを願って便りを贈ります。

浄土三部經かくの各經に三千大千世界の名前があって、私達の心の対境たいきょう、即ち認識の世界として掲げられていることは、前住聖人の仰せには、自我観と人生観と世界（社会）観に各々一千世界あってこれらの総称そうしょうを云うのですとお聞かせてでした。

かん観とは心の作用で認識することですから、日常使用する字典からでも観えつ閱・観客・観劇・観光・観察・観衆・観しょう照・観賞・観戦・観相そう・観点・観念・観音・観望・観葉・観覧などが列記されていますが、

これらは心の見方の名前で、自我の見方、人生の見方、

世界の見方に満数まんすうの一千を記されて総数とされたよう  
です。ですから私達の自我観いかがは如何、人生観いかがは如何、世界  
観いかがは如何と云うことになります。

佛教ではこの人生の大命題めいだいを整理・統合されて実相論じっそうろんと  
縁起論えんぎろんをもって解明するので、専門用語でありますが、  
少しお付き合い下さい。

実相じっそうとは認識の活動ではなく、動かぬ一実真如・宇宙  
法界の性徳の一心と云われ、

縁起論えんぎろんとは縁によって何かの動きが起こってきて、私  
達に対する作用なのです。

そもそも釈尊しゃくそん入寂にゅうじやく後に仏教の思想大系は馬鳴菩薩めみょうぼさつの  
大乘起信論だいじょうきしんろんによって発表されたのですが、その大意を簡  
略いつしんして一心、二門にもん、三大さんだい、四信ししん、五行ごぎょうと云われ、

一心は、法界の性徳の一心。

二門は、一心の二面性。

三大は、一心に具する三属性で体相用の三大。

四信は、真如・仏・法・僧より流出する信。

五行は、布施・持戒・忍辱・精進しかん・止観の修行と云わ  
れます。

これに就いて祖師聖人の解釈がありますので御披露いたします。

大宇宙の大運動に二つの相がある。

大乘起信論の著者馬鳴めみょうは一心の大宇宙に活動する唯一の宇宙自身に二門がある。

その一は、真如門しんによもん。その二は生滅門しょうめつもん。この二門は共に宇宙界うちゅうかいに於ける運動の上にあられた二つの相である。

これを他力本願・本願他力と云ふ。他力の本願は生滅門くらいに位し、本願他力は真如門くらいに位する。即ちこれを廻向えこうと名づける。

而して此の廻向には二種ある。

一は往相おうそう、二は還相げんそう。法界ほうかいの佛が衆生ほとけのころとして如来にょらいせるは還相なり。この如来が衆生の為に真実行の運動を成すは往相なり。これ一は実相身じっそうしん、他は為物身いもつしんなり。為物身の如来は衆生の無明むみょうを晴らし（大乘の法則を輝かせて）散乱の心を止めて実相身を（理想果運動）あらわすが目的なり。（已下略）と。

誠に難解な大論が我らの為ざいけぶつきょうに在家仏教と開かれて信受し易くされたのですから、真理は時を待ち人を待って説かれた方則が、聖人の叡智にて開かれ、お聞かせ下さると

は、と渴仰かつごう こうべの頭をうなだれて信受しんじゆさせていただくばかり  
なのでした。

為物身は我らには、六字名号の佛の事で、実相身ほっしょうの法性  
法身ほっしんの浄土の如来の元へ理想仏に為さしめようとして、  
唯一の娑婆に出現された佛で、鬼の如き衆生を佛の理想  
界に無条件で引上げようと為され、盛りさかに本願成就の名  
号を聞かせてやりたやの哀れみが、経に「聞其名号」と  
仰せて、我らが本願を受け取る方法までも「聞もん」と限られ、  
釈迦知識の手許にて善よき人の仰せと教えられて、その教  
法（聖人の御意は理想を實踐される仏心）を幾度も幾度も写  
らせようとして下さるから、こちらの側には一念と写し  
下さるのでした。

弥陀の四十八本願の王様を第十八願の念佛往生の本願と  
云います。

念佛しょういんが正因となり、衆生の往生の正果しょうかが定まるからで  
あって、この十八願には佛の手許に約すと因願いんがんの十八  
願と云い、衆生の側じょうじゆに約せば成就の十八願と云うから、  
被救済者ひきゆうさいしゃの我らからすれば成就を以て至極しごくとするのであ  
る。（改邪鈔）

既成きせいの真宗は因願・成就の区別がなく、若しくは差別な

く一つとしているのが現状であります。

私達からすれば因願の十八願は実相じっそうぶつ仏と云われた法性法身りぶつの理仏の手許であって將に法身の法王と浄土の菩薩が仏々相ひ念ねんぶつさんまいじ合っている念佛三昧の理想世界であるから五欲ちまなこの血眼の衆生からは拝見も推測も不可能の世界であって、

これが故に「この一如いちによより形をあらわして方便法身ほうべんほっしんと申す」為物身いもつしんの六字仏が出現されるのであります。

ここを願々鈔がんがんしょうでは、

「その名号をきくといふは善知識ぜんじしきに開悟かいごせらるる時分なり。問ふ、いまの文になんぞ名号をとなふといはず聞もんといふや。こたふ。名号をとなふる功こうをもって往益おうやくを成ずべからず。聞もんといふは善知識にあふて本願しょうきほんまつの生起本末をきくなり。ききうるにつきて歡喜の一念じじょう治定す。この時にあたりて即得往生そくとくおうじょうじゅうふたいてん・住不退転す。至心廻向ししんえこうの四字は成上起下じょうじょうきげとならふなり」(乃至)

と明かされました。

何故この鈔文を出したかは、現近の真宗の或る一派の有様がそれで「名号を称するが正因か、名号を聞くが正因か」の質疑応答がなく、専ら口唱を勧めるのが正当とし



ているからであります。

我宗は「其の名号」とは念佛往生の願因がんにんの名号であり、この名号の中には信楽しんぎょうがあり。故にこの名号を聞きひらきたる時、乃至ないしいちねん一念とあらはる如来聖人の御意を正当とするからであります。

ここが善よき人の仰せの胸の内を明かせられ、この乃至一念と写された「あなたの大宗教心」こそ越前吉崎在住の蓮如宗主時代、「嫁おどしの面」の大事件が起きた時、か弱かきお嫁さんの告白こそ「喰はめば喰はめ、食くらわば食くらえ金剛の他力の信はよもや喰はまれじ」の覚悟の叫びでありました。

かく申し上げましたことは、私達、未経験の病原菌に苛まれる日暮の中に、どうぞ吉崎の故事に習われて、理論と実際が一体となる信知の体験の中にあって下さいと願って止まないからであります。

以上

不 許 複 製

所有者 弘願真宗総本山聖玄寺法燈局

住所 福井県福井市羽水 1-303